新時代の公共放送
～放送は何を伝えてきたか～

NHK 高松放送局副局長
平地正宜　先生

要旨

放送番組の中味は時代と共に変わります。時代が放送に反映されたり、放送が時代を作ったりしたこともありました。放送の歴史を振り返りながら、今後の放送を考えます。

初めに

この 8 月に神戸から高松放送局に異動しました。かって夜の「7 時のニュース」番組でデスクをしていた時に、視聴者の皆さまからの問合わせの担当、つまりいろんな苦情とか間違いを指摘されてお応えする係をしていました。視聴者はよく見ています。例えば「扁桃腺　甲状腺　妊娠腺　生命線」の中に間違いが一か所あります。そうです妊娠腺です。もともと字幕は、ディレクターが記者の記事やカメラマンの映像をブレンドしてニュースを作り、説明あるいは内容の補足という形で手書きして字幕を作る部署に FAX を送ります。ここでは受付、差配、作成、チェックの 4 段階を経たのち、放送直前にディレクター上司が最終チェックをしたのを流します。5 回チェックしても思い込みということもあり間違えます。視聴者から指摘され初めて、「どのニュースか」ということになり、放送されたニュースを見直し辞書を見て妊娠腺の間違いを知り、アナウンサーに訂正をもっていくのです。30 分番組のニュースは 1 分刻みで流れていきその中で訂正をいれなくてはならないのです。厳しい現場を経験してきました。

●1925(T14)3.22 午前 9 時 30 分……社団法人東京放送局仮放送開始。

「JOAK JOAK こちらは東京放送局であります」がラジオの第一声でした。3 月 22 日は放送記念日になっていて、毎年感謝状の贈呈式を行っていますが、今年は東日本大震災があったのでこのような催しはありませんでした。当時の受信契約者は 3500 で受信料 1 円でした。この年の 6 月 1 日に大阪で、7 月 15 日に東京で放送が開始され、翌年の 1926(T15)8.20 に社団法人日本放送協会が設立されました。

TV の実験放送に成功したのは 1939(S14)年 5.13 です。実は 1931(S6)年のベルリンオリッピックで、ナチスはベルリン市内で TV 中継をしているのです。

●1945(S20)8.15……終戦

●翌年 1946(S21) 1.19……「のど自慢」放送開始。

これまでラジオは一方的に伝える形であったのが、初めて視聴者が参加する象徴的な番組でして放送の民主化といわれています。最初は「のど自慢しろうと音楽会」といってました。人気番組で一回目は 900 人の応募がありました。翌年には、テーマ音楽を流して物まねや浪曲を加え「のど自慢しろうと演芸会」と名を変えカネを鳴らしました。今、カネは３つ、１つはほとんどありませんが、当時はコンクール番組でうまい人は３つ鳴らしました。司会の宮田輝アナウンサーが、1966（S41）年に『ふるさとの歌祭り』という別番組に移動したとき視聴率がガタンと落ち、1969（S44 年）には一回の収録に 1000 人の応募者があった番組が 46 人になったので、番組の再編成に取り組みました。まず「NHK のど自慢」というタイトルにして、出演者も 25 人から 20 人にして全員が登場するインタビュー方式になりました。また一所懸命に歌っている人には特別賞を設け、コンクール番組からみんなで楽しむ番組に変身しました。

「のど自慢」は、時代により番組の質がどんどん変化している長寿番組です。最初は GHQ 指導による放送の民営化、皆さんへの開放の場としての番組でした。こうした番組には街頭録音、放送討論会、

のど自慢などがありました。

さて日本の経済がどんどん成長すると、勝ち抜くことが視聴者に受ける時代に入りますが、経済成長の停滞と共に 1970 年からはみんなで楽しむ時代に移行します。社会が成熟してきたことの表われです。「のど自慢」はそれらを反映し変化している番組だと言えます。歌のうまい人ではなくて個性のある人を認める時代、スタンド型からワイヤーレスのハンドマイクに変わることで歌うだけでなくてアクション付きになって最近は年配者よりも若い人の出場が多くなりました。

私は、高松で審査委員長をしていました。約 1000 通の応募の中から、250 人ぐらいに絞った予選会では 1 人 50 秒で全員に歌ってもらい 20 組に絞ります。合格しそうな 6～8 人、そしてうまい人だけではなくて高齢者や若いひと、元気のいい人、地元の人そしてゲストの歌を歌う人などバラエティ番組のつもりで選考していきます。

当日の朝に音合わせをして、一番は元気な人からスタートして 3 番目ぐらいに合格者がほしいのですが、合格すると見込んでいた人が本番で失敗することがあります。とても上手な人が失敗すると合格ラインが跳ね上がり合格者が少なくなって、今週のチャンピオンが選びにくくなってやきもきしたこともありました。しかしやる側としてはとても面白いし盛り上がる番組で、中には「のど自慢」に出てプロになった歌手もいます。

●1950(S25)6.1……放送法による「日本放送協会」設立

社団法人から法律に基づいた団体、特殊法人というのが NHK の位置づけです。

●1951(S26)1.3 ……「紅白歌合戦」放送開始

日本人の家族に対する考え方の変遷が出ている番組です。もともと第 1 回～3 回までお正月のラジオ番組として大みそかに「紅白音楽試合」として放送しました。「紅白歌合戦」としたかったのですが、GHQ から戦争放棄した日本に合戦というのはふさわしくないというクレームがついて、「紅白音楽試合」として放送しました。第 4 回 1928(S41)年から大みそかに移して TV が始まりました。大みそかにしたのは、お正月に歌い手さんの確保が難しかったのと、大みそかは家族で過ごす日ではないか、家族で見るがコンセプトでした。その考え方が視聴者に伝わって、第 14 回 1963（S38)年では視聴率が 81.6%になりました。これは最高記録です。1964(S39)カラー放送、第 22 回 1971(S46)年マイクはスタンドからハンドマイクに、第 29 回 1978(S53)年トリを演歌以外に、山口百恵さんの「プレイバックパートⅡ」、沢田研二さんの「ラブ抱きしめたい」でした。平成になってから 2 部構成に。S30-40 年代は一家に TV が一台の時代、今や一部屋に一台の時代に変化し、家族それぞれが見ている TV がバラバラの時代になりました。

音楽の聴き方も変わってきました。町の中に音楽が流れていない、ウォークマンなど自分だけ聴いていて、100 万枚のミリオンセラーがあっても 100 万人しか聞いていない。皆が共に聞く歌そのものがなくなってきている時代です。紅白を聞いても、若い世代は演歌なんかつまらない、演歌の世代は若い人の音楽は分からないと互いにいいあい、家族の価値観が異なっています。私たちは、年に一度ぐらいは、家族で一緒に音楽を聴く機会があってもいいのではないかというコンセプトで番組を作っています。視聴率という点から言うと右肩下がりの状態であり、TV 番組を作る側の思いが乖離している現実はどうしても否めません。この番組がどうなっていくのか、家族の在り方次第でかわっていくでしょう。それがいいのかどうかは分かりませんが、時代がどう放送に反映されるのかということです。この番組は平成 12 年に海外 4 か所から中継したが、その時に NHK ホールの盛り上がりがダウンしたので、基本的にホールの中で完結する番組にしています。

●1953 (S28)2.1……テレビ本放送開始（東京のみ受信料 200 円）、8.28 民放（NTV）開局

放送業界としては TV の普及が大事なので、日本 TV の正力松太郎さんが街頭ＴＶを考えて、昭和

S29 年力道山とシャープ兄弟のプロレス中継をして男性に大反響を呼びました。当時の技術ではこのような中継しかできなかったのです。当時だとサッカー番組は中継出来ないスポーツでした。スポーツはみんなで一緒に見ると盛り上がります。しかし TV に出ることでスポーツ形態が変わることもあります。S31 年カラーテレビの実験放送を開始しています。

●1957(S32) 11.4……「きょうの料理」放送開始

実用番組の走りです。S28 年ホームライブラリイという番組のひとつのコーナーで料理番組をしていたのが独立したものです。材料も食材もなかったので、お母さん方に料理の仕方を伝える番組でした。栄養改善のために油を使った料理を普及するためにフライパン運動をしていた近藤とし子さんが初代の料理の先生です。国家公務員の給料は 19,000 円だったので、食材は一人前 30～50 円、材料は 5 人分でした。1965 年 4 人分に、2009 年には二人分に、またレシピの家族の対象がデインクスになっています。料理の先生には、海外赴任の奥様、帝国ホテルの料理長、料理学校長の土井勝さんや辻嘉一さんなど著名人が登場するようになりました。1972 年成人病の食事、1983 年男の料理、1995 年アトピー対象、2007 年料理ビギナーにと続いています。

●1957 (S32) 11.10……「日本の素顔」放送開始

ドキュメンタリーの草分けです。当時の TV は撮影したものをそのまま流していました。これに対してドキュメンタリーは世の中の動きはこうだからこうなるのではないのかという仮説を立てて取材し実証していくのです。あくまでも仮説であって、思い込みなどがあってその通りにならないことがあります。その時は修正できるかどうか、これは作り手にとって非常に大事なことであって、モラルの問題になります。取材したことを無理やり仮説にあわせちゃうと、番組の捏造という形になります。実験データではこのようなデータが出ていないが、この先生がこう言うのでこれにあわしちゃうと楽ではあるが、こういうことをやってしまうと放送に対する信頼が失われてしまいます。仮説を立てて取材をするが、取材をするうちに事実が明らかになれば、事実にそって柔軟に変えていく姿勢が番組の作り手にとって大事なモラルになってきます。

8 回目の番組で「日本人と次郎長」について放送した時、日本人はやくざに共感をもっているのではないか、博徒の組織は日本社会の原形であるという仮説に基づいて実際にやくざを取材しました。この番組は評判をよびましだ。また水俣の奇病、三井三池炭鉱の争議などを取り上げました。対極にあったのが、新日本紀行です。当時はゼンマイ式フイルムの時代で３分しか撮れません、今の VTR は最高 2 時間可能です。

●1958(S33) 5.16…….テレビ受信契約 100 万突破

●1958(S33) 11.27…….皇太子婚約発表、翌年 4 月 10 日ご成婚

ここで TV が大きく普及する大きなきっかけになりました。

●1959(S34) 1.10…….教育テレビ放送開始

●1959(S34) 10.5…….「おかあさんといっしょ」放送開始

はじめ子供と一緒に見るお母さん向けの番組でしたが、その中のコーナーが子供むけ番組として独立し翌年には 1 週間続く帯番組になりました。月と火は「ブーフーウー」、水と木は「ミュジカルバラエテイ歌って遊んで」、金は工作の時間「いいもの作ろう」、土はしつけ「なかよしこよし」で始まりました。1961 年、ラジオの歌のおばさんが発展して歌と体操の「歌の絵本」が始まり、歌のお姉さんと体操のお兄さんが登場しました。ひと昔前はおじさん(月光仮面)やおばさんが子どもたちの憧れだったのですが、このころからおねえさんやおにいさんに変わってきます。どんどん可能性にある世代へと人間の価値観が変わっていきました。1970 年、4,5 歳が対象だったのですが幼稚園に通い出して見る子ど

もたちがいなくなり、転機を迎えました。「セサミストリート」「ひらけポンキッキ」というライバルが登場しました。対象年齢を下げて「バジャマでおじゃま」「歯みがきじょうずかな」など、2 歳児が対象になりました。2 歳児の集中力は 2 分半と判りましたので、緩急をつけて細かいことをポンポンとつなげていったのです。1998 年総合から教育 TV に移りました。10 年 6 カ月続いた「ニコニコプン」、女の子がキャラクターに入った「ジヤジヤマル」「ポロリ」ピッコロ」では、それぞれ「字が読めない」「泣き虫」「空を飛べない」とか弱点を持ちながらも元気にしている子どもというスタンスです。

●1960(S35)8.11……テレビ受信契約 500 万突破、9.10 カラーテレビの本放送開始

1962(S37)3.1 にテレビ受信契約が 1000 万突破し、2 年間で 2 倍になるという普及期です。

●1961(S36)4.3……「朝の連続テレビ小説」放送開始

TV は昼と夜とか放映していなかったので、朝の視聴者不毛地帯の開拓のために、奥さんに家事をしながら見てもらうために、「娘と私」がスタート。連続テレビ小説なので次の日も、次の週も続けて見てもらうために思わせぶりな終わり方をするために、極めてナレーションが大切な番組でした。2 作目から 8 時 15 分に「明日の風」、第 6 作目があの「おはなはん」です。1966 年から女性の一代記になりました。この時期から女性の社会進出が進みます。ドラマの中で男性に伍して頑張る姿と、当時は新人を使っていたので回を追うごとに上手くなっていくのが自分の娘の成長を見守るように応援したいという展開になっていきました。朝ドラのための脚本が作られました、視聴者の反応を見て脚本の内容を途中で変えられる利点があります。もちろん昨年の「ゲゲゲの女房」のように原作があるのもありますが、原作があるとストーリーの逸脱がしにくいということがあります。「大河ドラマ」と違うところです。最近は、「おひさま」のように等身大の女性が登場しています。ご家庭の主婦に共感を持って見て頂くのを目的としていますが、これからは団塊の世代の男性たちも家庭にいるのでそれも考えなくてはと思っています。

●1961(S36)4.3……「みんなの歌」放送開始

短編ミュージカルをアニメーションで作ろうというのが目的です。「山口さんちのつとむ君」はミリオンセラーになりました。「クラリネットを壊しちゃった」『北風小僧のかんたろう』など。

●1963(S38)4.1……「明るい農村」放送開始

農事番組は終戦直後から欠かせないテーマになりました。戦前、農家の生活が苦しかったのが戦争の引き金になったということで、GHQ 占領政策 5 大改革の中に経済政策がありました。NHK には非常に大きな組織である農林水産部というディレクターの集団があり、「農家におくる夕べ」「新しい農村」「はやおきどり」「農家のいこい」、農家に農業の情報を提供する「農林通産通信委員」など、農村の貧しさと封建制を打破することが放送番組の柱になっていました。化学肥料、農薬、新しい機械が入ってこれからは明るい農村が主流というのでこのタイトルを作りましたが、その後の農業は決して豊かには成りませんでした。過疎、減反、農家の高齢化、農作物の自由化、食糧自給率の低下など農村の人たちはみんな都会に出て行き、現在 NHK には農林水産部はありません。番組のタイトルのような「明るい農村」は、思いだけに終わってしまったのかもしれません。

●1963 (S38)4.7……「大河ドラマ」放送開始、日本人はどこからどこへ。

この「大河ドラマ」とう名前は読売新聞が名付け親であって、もともと大型娯楽時代劇というタイトルでした。歴史劇と時代劇とありますが、「大河ドラマ」は歴史劇で、時代劇は銭形平次、暴れん坊将軍などです。だから今年の「お江」が辛いところなのです。こんなことがあったのかといわれても資料が残っていないのであったかどうかはっきりと分からないからです。このドラマを見る年代は、20 代の男女、30 代の女性、40、50 代の男性でこの年代の男性は抵抗があるのです。60 代の男性のトップは「おひさま」です。ただ日本人はこうあるべきであるという歴史の部分をどこまでずらしてドラマとしての

面白さと歴史としての大切さを探っていく岐路にきています。ただ篤姫以降は、男性だけではなくて、女性にも見てもらうことを意図しています。

●1963 (S38) 10.7……「新日本紀行」放送開始

紀行番組の先がけです、日本人はすばらしい、地域っていいよねという番組で、自分たちの生きざま、営みを派手さはないが肯定的に記録として残しています。

●1963 (S38) 11.23……日米間テレビ宇宙中継　　ケネディ暗殺の実況放送。

●1964 (S39)4.6……「ひょっこりひょうたん島」放送開始

これに先駆けて「チロリン村とクルミの木」は結構長いこと続いたのですが、一つの村だけのお話なのでなかなか大きな展開が難しく、「ひょっこりひょうたん島」は自分勝手でわがままな大人ドンガバチョとしっかりものの子供が色んな国に行って色んな騒動をひき起こして大きく場面が展開できます。子ども番組としてはなかなか視聴率がよくて 37.5%ありましたが、お母様方や有識者からは有害番組だとも批評された番組です。

●1964(S39)10.1……放送センター一部完成、オリンピックの放送基地に。

放送とスポーツについて、オリンピックの放送の歴史をひも解くと、1932(S7)年第 10 回ロスアンゼルスオリンピック大会が日本での放送の最初。1931(S17)年のベルリンオリッピックで「前畑ガンバレ」の実況中継を、1952(S27)年ヘルシンキ大会ではラジオによる録音放送を、1956（S31）年メルボルン大会は、フイルムを空輸し現像して TV 放送、1960(S35)ローマ大会は VTR を放映しました。

●1964(S39)10.10 東京オリンピックは、各国へカラーで衛星中継をしました。しかしカラーで送っても映像は不安定でカラーにならないこともありました。開会式はカラーですが、閉会式は夜で明るさが足りないので白黒、マラソンの中継はカメラが一台なので、アベベさんしか映せませんでした。いまやランナーと共にレールを走るカメラがあります。TV はスポーツをお茶の間に持ち込みました。一方で放送局は競技団体に放送権料を払っているということがあって、ルールや時間さえ変えることもあります。バレーボールなども TV に合わせてスタイルを変えているし、いいことか悪いことか確かに見易くなっていますが、そういうことをしてスポーツの本質を変えてしまっていないかが案じられます。

●1965(S40)4.5……「スタジオ 102」放送開始

オリッピックの年に NET(現在の TV 朝日)が「木島則夫モーニングショー」を、翌年に「小川宏ショー」など相次いでスタートしました。要するに朝のワイドショーです。NHK ではニュースショー「スタジオ 102」を 35 分の番組に広げて当事者を現場に呼ぶことにしました。たとえば全日空が大事故を起こした時、羽田に帰った社長を放送局によんでインタビューをしました。以後「ニュースワイド」「モーニングワイド」、今の「おはよう日本」と続きます。ニュースの伝え方が大きく変わったのです。1974 年磯村さんの「ニュースセンター9 時」の番組は、でだしは良くなかったのですが、磯村さんが幅広の襟の背広を着ていると週刊誌に採り上げられたのがフォード大統領も着ているということで視聴率が上がったのです。これが夜のニュースワイドのはじまりです。もともと事実関係を淡々と伝えるというのが典型的な NHK のニュースでしたが、色んな視点から幅広く進めていくという姿勢に変わりました。

●1966(S41)3.20……カラーテレビ全国放送網完成

●1966(S41)3.23……「四つの目」放送開始（～S47.3.30）・・・ポピュラーサイエンス

●1967(S42)12.31……テレビ受信契約 2000 万突破

●1968(S43)4.1……受信料改訂（カラー465 円、普通 315 円、ラジオ廃止）

●1972(S47)4.9……「中学生日記」放送開始・・・「普遍」を問題設定

●1973(S48)7.31……放送センターへの移転完了

●1976(S51)4.11……「日曜美術館」放送開始・・・カラーテレビならでは
●1978(S53)4.6……「歴史への招待」放送開始・・・教養からドラマへ
●1982(S57)4.10……「YOU」放送開始（～S62.4）・・・俺はもてないぞ
●1984(S59)5.12……衛星放送の試験放送開始
●1989(H l)4.1……受信料に消費税（カラー訪問 1070 円、口座 1020 円）
6.1……衛星放送(BS 放送)の本放送開始・・・フジテレビに飽きたら
8.1……衛星料金新設（衛星カラー訪問 2000 円、口座 1950 円）
11.25……ハイビジョン試験放送開始
●1995(H7)1.17……阪神・淡路大震災
3.1……郵政省の「マルチメディア時代における放送のあり方に関する懇談会」の最終報告書で初めて地デジの方針が示されます。

地上デジタルにかえるということは、アナログに比べて雑音に強い、電波を使用する幅が少ないコピーをしてもデーターが劣化しないということです。アナログというのはざっくり言えば電波の強弱であって、デジタルはデーターを総て 0 か 1 に変えるのであって、つまり電気が流れるか流れていないかその二つに分けます。その特性を生かして、世の中は総じてデジタルになっているのでデジタルにかえていくのです。
●2000(H12)12.1……BS デジタル放送開始（民放参入）
●2001(H13)6.15……電波法改正で地上アナログ放送の 10 年以内に停止へ
●2003(H15)12.1……東京、大阪、名古屋で地上デジタル放送開始
●2005(H17)1.17……新神戸放送会館オープン
●2006(H18)4.1 ……携帯端末向けワンセグ放送開始
12.1……全国の県庁所在地で地上デジタル放送開始
●2011(H23)7.24……完全デジタル化完了（東北 3 県除く）
10 年前に電波法で決められていたのが、やっと完成したのです。

デジタル放送の特質

高画質　⇒走査線の数が 525 本から 1125 本。画素数 35 万個から 200 万個に。
200 万画素では少ないと思われるかもしれないが、動く画像は 1 秒間に 30 コマ動いている。その 30 コマが総て 200 万画素あるので 200 万画素×30 コマつまり 1 秒間で 6 千万画素の画質であります。

高音質　⇒6 つのスピーカーで多角的な音声（正面、前左右、後ろ左右、右前に低音スピーカー）、5.1 サラウンドと呼ばれています。
要するに音の出るところが 5 か所と右前に低音部分もあるので、6 か所から音が出るという形で TV の信号を作っています。そういうスピーカーを付けていないと聴けませんが、昨年のワールドサッカーはこの方式を採用していましたが、そのうちの 4 つが壊れて、インタビューの声が出ないことがありました、ところが古いアナログの方は聴けたので大変叱られたことがあります。

マルチ編成⇒1 つのチャンネルを 2 ないし 3 に分けて伝える仕組み。
地上デジタルの電波は、全体を 13 に区分けして送られていてセグメントといいます。この一つだけ使って携帯電話で見られるように用意しています。実際の放送は 12 セグ使

っていて、1 つのチャンネルを 2 ないし 3 に分けることができるので、たとえば教育 TV を阪神の野球のある時に、こっちは教育に、もう一つは野球にという風に分けて使えますので、どちらかを選ぶことができますが、マルチ編成をすると画質が落ちます。

双方向　　⇒テレビにインターネットなどをつないで、視聴者が番組参加します。

データ放送⇒電波の隙間に文字や画像データを混ぜ込んで送るもので、見逃したお知らせの内容や催し物の連絡先など、いつでも何度でもゆっくり見られます。

リモコンの d というボタンを押して使います。これは通常の画面に文字が出でくるので、災害の時に使用すればいいと考えています。

デジタル放送はうまく利用しながら役立てていただきたい。今神戸では、河川の水位や地域の雨量を常に流しています。そういう仕掛けを利用して下さい。ご自分で選べますから皆様方に使っていただくように考えていきたいなあと思っています。

リモコンの使い方

画面表示・・チャンネルや時報を表示

オフタイマー・・時間がくれば電源が切れる

3 桁入力・・数字番号を打ち込んでチャンネルを合わせる。

総合 011、　E テレ 021（マルチ編成 021 と 022）、　BSl・101、　BSP・103

d ボタン・・データ放送

入力切替・・DVD やビデオ見るための切り替え

番組表・・・ラジオテレビ欄が画面に

裏番組・・・その時間に放送されている番組

番組情報・・当該番組の内容、出演者

色ボタン・・データ放送や番組表で使用

音声切替・・英語放送など

字幕・・・・ニュースなど一部番組では字幕がでる。

一言メモ　　間違った使われ方が沢山ありますが・・・・？

◎「コンセントを抜く」に違和感がありますか。

⇒　穴があいている方がコンセントなので、コンセントからプラグを抜くが正しい。しかし、「コンセントを抜く」をダメとは言い切れないのが、新聞協会の考え方です。たとえば「鍵をかける」は、錠前を差し込んで鍵をかけるの意味ですが、「鍵かける」をおかしいとは言わずに普通に使われています。「お湯を沸かす」時「みずを沸かす」とはあまりいわない。本来の対象物を動詞の目的語に使うのではなくて、操作の結果を目的語にする日本語が存在しているということです。もともとコンセントではなくて、和声英語であってソケットが正しい。コンセントは電機会社が造語として作ったものです。

◎「救出活動は、いま現在も続いています」はおかしいでしょうか。

⇒　まあいいのではないでしょうか

馬が落馬する、頭痛が痛い、2 度とふたたびなどは違和感があると思いますが、被害を被る、あとで後悔するは許せる人もいるのではないでしょうか。歌を歌う、踊りを踊る、掛け声をかけるなどは自然に使われています。このような重複出現は、書き言葉では避けますが、話し言葉では違和感を感じなければ許されるというのが今の考え方です。